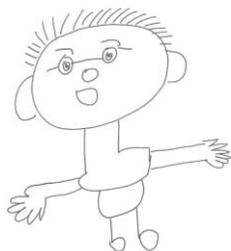


QSK にぬふあぶし

No.264

ね
子の方向の星



新年のごあいさつ

公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会

会長 山田圭吾

あけましておめでとうございます。旧年中は皆様に支えられて活動ができました。感謝申し上げます。

さて、昨年は沖福連の30周年を迎えた記念すべき年でした。しかし、発足以来、県内の家族会が力を合わせて様々な活動をしてきた割にはほとんど知られていないのではないかと思います。そのような中、「私宅監置」が話題になり、これを機会に沖福連として取り組もうということになりました。

写真展を開催することになりましたが、写真と説明文だけでは物足りないなどのことで、ヤンバル(沖縄本島北部)に残っている「監置小屋」のレプリカ(複製品)を作り展示しようということで、県立芸術大学の学生が主体になって立派なものが出来上がりました。本来なら現地で体験していただくことがいいのですが、それでも、会場で小屋の中に入ってみたり、写真を見ていただき多くの方に知らせることが出来ました。4月に県立博物館・美術館(那覇市)、7月に石垣市、12月に豊見城市で開催しました。幼いころに近くで見たことを思い出し、「あの頃は何か分からなかったが、これだったのか」との感想や、「どこそこにあった」とか、「怖くて近寄れなかったが、おとなしい人が閉じ込められていた」とかの数々の証言も聞くことができました。

12月には映画「夜明け前」を上映しました。100年前に日本の精神医療の改革を唱えた呉秀三氏の事を描いた内容ですが、そこに出てくる「私宅監置」がより身近に感じられ、さらに伝えることの必要を思われました。今年はさらに一人でも多くの人と喜びを分かち合えるよう、活動を豊かにしていければと願っています。変わらぬご支援をお願いいたします。

3日連続の記録映画『夜明け前』上映とトークセッション 会場からあふれる参加者 12月22~24日 那覇、名護、豊見城で開催

私宅監置をテーマとする今回の企画、遺跡保存に関して議論が深まったと思います。23日の名桜大の会場で、沢山の意見がでた最後に、マイクを取った藤井克徳さんの発言を紹介します。

藤井) 私は、アウシュビッツの600万人大虐殺の前に、障害者が20万人殺されている、これにこだわってドイツ行ってきました。ドイツのハダマル、ここが立派だったのは、本当は忌々しいから、消しちゃえと、この障害者殺しの虐殺現場は、6か所あるんですが、4つは、見たくもないと壊しました。今、残ってるのはハダマルという所に1か所。半分残ってるのはマールブルグって所です。

国策として、国が、ナチ党がやった。従って、国とヘッセン州が、公的にこれを遺構として残す。今は中高校生や大学生も、必ず見学する教材ですね、学校教育の一環として見学する。この問題、たった5年6年前です、表に出たばかりなんです。ドイツでも恥ずかしかったんですね。

一時、感情だとか、特に遺族の気持ちはある。しかし、ここにいるみんなは、歴史の中継ランナーなんです。我々しっかり、過去からバトンをもらって、つなぐ。最大の伝承とは保存だと思うんです。

この問題は、まずは謝罪。そして、検証。そして、保存。同時に問題の本質は、国策としての人権侵害である以上、その全体責任は国である。それを、県が補うという構造。遺構ってのは、歴史的に大事なものです、これを遺していくとすると、まずは家族遺族の理解、地域の応援も必要。それを継続していくためには、公的なものか、民間かは別として、当事者が入った組織実態。そして、資金問題。根底は、何のために遺すのかっていう理念、考え方。これをきちんと持つ、歴史のバトンとして、後世につなぐ。やはり、非人道・非人権の証として、広く国民に触れるように。そして、そこにいた方の思いを考えた時に、やっぱり、代弁者としての当事者、家族もね、この問題の、主人公。

最後にですね、呉秀三がああ忌々しい拘束具、全部、彼は焼いたわけです。でもね、少し残した。それは使うためじゃなくて、後世の後輩たちのために、これを使っちゃいけないってために遺しておこうと。今日実は、松沢病院と掛け合って、本来、門外不出なんだけど、今日、沖縄の皆さんに知ってもらおうということで、今日、展示してあります。是非ね、帰りに見て行ってほしい。

(報告：高橋)



第5回こころんピックバレーボール大会開催

(第18回 沖縄県精神障がい者ソフトバレーボール沖縄県大会)

こんにちは、本年も1月30日～2月1日まで第5回こころんピックバレーボールを開催する運びとなりました。

本大会はチーム合計16チームで争うこととなります。運営としてはもう少しチーム数が増えるといいなと思いますが、年々チームが1チームずつ減ってきているのが気になっています。

精和病院チームが5連覇中なので勝てるチームが出てくれるといいなと思います。今年は優勝すると福岡県で開催される九州大会に出場することになるので各チームの皆さんには頑張ってほしいと思います。あと、遅くなりましたがてるしのチームの九州大会の派遣費に協力していただきありがとうございました。また、協力をお願いすることがあると思いますがその時はよろしくお願致します。

奨励賞受賞!

「心の芸術・文化フェスティバル」に、なんくるから団体作品として出品した『青い馬』が、奨励賞を受賞しました!

先日、表彰式が行われ、なんくる利用者さんと一緒に参加してきました。



Normalization-seminar2019 「あなたは幸せですか？」

「世界一幸福な国」、そう呼ばれるようになったデンマークの社会福祉制度の背景と生活基盤となる暮らしについて、バンクミケルセン記念財団理事長・千葉忠夫氏をお招きし、基調講演を行います。

その内容を受けて、第1部シンポジウムでは「デンマークにあって日本にないものは何か？」について、社会福祉従事者と現地の家庭医で精神科医のハンス・カルオップ氏をシンポジストとしてお招きして議論します。

第2部シンポジウムでは、社会福祉が広まった文化・慣習の違いを「教育」という視点から考察します。コーディネーターには、沖縄国際大学の講師として教育活動に力を注いでいる知名孝氏を加え議論を展開して行きます。

基 調 講 演 「世界一幸福な国デンマークの暮らし方」
1部シンポジウム 「支援者としてみるデンマークの医療福祉」
2部シンポジウム 「生活者として振り返るデンマークの教育」

日 付 2019年2月9日(土)

会 場 沖縄科学技術大学院大学(OIST)講堂

時 間 10:00~13:20(9:30開場) 13:30~希望者によるカフェランチ懇親会

定 員 490名

参加費 事前申込み1,500円 当日申込み2,000円 ランチ参加500円

問合せ 株式会社アソシア TEL098-926-5175

◎編集後記◎

『平成最後の・・・』という言葉に「ハッ！」としながらも淡々と過ごしている今日この頃。今この瞬間を大事にできる暮らしができるといいな～。

幸せは、「なる」ものではなく「感じる」もの。(か)

編 集：公益社団法人

沖縄県精神保健福祉会連合会

会 長 山田 圭吾

〒901-1104

沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1

てるしのワークセンター内

電話 098-889-4011 FAX098-888-5655

E-mail terushino@castle.ocn.ne.jp

発 行：九州障害者定期刊行物協会

〒812-0024 福岡市博多区綱場町 1-17

福岡パーキングビル 4階

電話 092-753-9722 FAX092-753-9723

定 価：10円(会費に含まれる)